

安井觀勝寺光明院は安井御門跡前大僧正性演再興し給ふ。古より藤の名所にて、崇徳天皇の後妃阿波内侍此所に

住せ給ふ。天皇保元の乱に讃岐国へうつりましゝて、御形見に束帶の尊影御隨身二人の像を画て、かの地より皇后に

送り給へり。其後天皇〔讃岐院とも申す〕配所松山に於て大乘經を書写し、和歌一首を添給ひて都の内に納めんとて送り給ふ。

浜千鳥跡は都にかよへども身は松山にねをのみぞなく

讃岐院

然るを少納言入道信西奏しけるは、若咒咀の御心にやとて御經をば返しければ、帝大に憤り給ひて、大魔王となつて天下を朕がはからひになさんと誓ひて、御指の血を以て願文を書給ひ、かの經の箱に奉納龍宮城と記し、堆途といふ海底にしづめ給ふに、海上に火燃て童子出て舞踏す。是を御覽じて所願成就すと宣へり。夫より爪髪を截給はず、六年を経て長寛二年八月廿六日に崩御し給ふ、御年四十六、讃州松山の白峯に葬り奉る。〔以上保元記に見えたり〕夫より御靈此地に来て夜々光を放つ、故に光堂ともいふ。然るに大円法師といふ真言の名僧、此所へ来つて参籠す。崇徳帝尊体を現じ往事の趣を示給へり。大円これを奏達し、詔を蒙りて堂塔を建立し、かの尊靈を鎮め奉り、光明院と号しける。仏殿の本尊は准胝觀音なり。御影殿には後水尾院の宸影、明正院並に東福門院の尊牌を安置し奉る。又弘法大師像あり。奥の社は崇徳天皇、北の方金比羅權現、南の方源三位頼政、世人おしなべて安井の金毘羅と称し、都下の詣人常に絶る事なし。崇徳帝金比羅同一体にして、和光の塵を同じうし、擁護の明眸をたれ給ひ、利生靈驗いちじるしとぞ見えにけ

る。

当寺の門前を新更科しんさらしなと号し、中秋には洛陽らくやうの騷客さうかくこゝに集りて東山ひがしやまの月を賞す。今は家居繁く建ならびて風景を喪ふ。